

# よなごびと

| 第60回 |

刺繍作家

きやま れい  
**木山 麗** さん



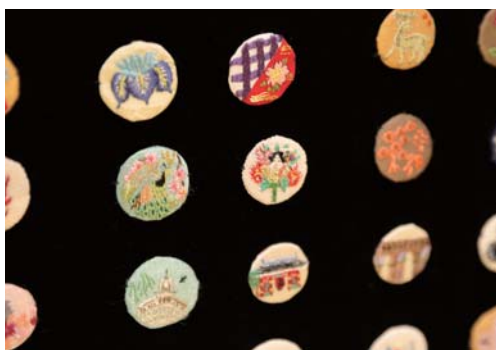
”  
刺繍は

私の世界を広げてくれた

“

木山さんが刺繍を始めたのは24年前。日本刺繍の美しさに魅せられ、隣の師のもとで基礎を学びました。しかし、ご家族の転勤で生まれ育った米子を一旦離れることになり、その後は独学で制作を継続。そのうちに、技法にはこだわらず、自由に遊び心のあふる意匠で刺繍を楽しむようになりました。「私のは自己流なので、『和刺繍』と呼んではいけません」と、はにかみます。

髪の毛よりも細く、少しでも針が狂うと全体の歪みに繋がると言い、「一針ごとに『うまくいけ！』と念にも近い願いを込める」と笑います。14年前から「へちま舎」というブランド名で、がま口などを発表していましたが、転機となったのは2年ほど前。作品を見た人から勧められ、二科展に出品するとデザイン部門で大賞を受賞しました。それ以降、3年連続で同展での入選を果たし、「作品をより多くの人に見てもらいたい」という気持ちが強くなったという木山さん。「刺繍を通じて学んだこと、出会った人、行った場所がたくさんあり、私の世界を広げてくれた。今後も新しいことに挑戦していきたい」と目を輝かせます。



令和3年に二科展のデザイン部門で大賞を受賞した作品「ピッコロモンド」は、直径2センチの紋を約170個並べて1枚の額絵に仕上げた作品



インスタグラムで作品を発信しており、今後市内で作品展を開催予定です